

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同利用・共同研究課題

「イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究：イラン・サファヴィー朝祖廟を事例として」

2019 年度第 3 回研究会（非公開）

日時・場所 2020 年 2 月 16 日（日）11:00–16:00 東京外国語大学 AA 研・セミナー室(301)
プログラム

11:00–12:00 全員

2020 年度研究計画の打ち合わせ

13:00–15:30 山口昭彦（聖心女子大学）

「アルダビール廟関連ワクフ物件の地理的分布：オスマン朝の記録（TT896）をもとに」

コメント：齋藤久美子（AA 研共同研究員，九州大学）

15:30–16:30 全員

総合討論

研究会報告

通算第 6 回目となる研究会の第 2 日目は、次年度 2020 年度の研究計画打ち合わせと、ゲスト・スピーカーの山口昭彦氏（聖心女子大学）による研究報告が行われた。

山口氏の報告「アルダビール廟関連ワクフ物件の地理的分布：オスマン朝の記録（TT896）をもとに」は、18 世紀初、サファヴィー朝崩壊直後に起きたオスマン朝によるイラン北西部占領（1723-1730）の際に作成されたアルダビールとサフィー廟ワクフに関わる 2 点の租税台帳（トルコ共和国大統領府古文書局所蔵）について、報告者の研究の一端を紹介するものであった。この租税台帳は、18 世紀初頭の時点でのサフィー廟の財産の状況を伝える貴重な史料であり、サフィー廟財産管理史料群の基礎研究に取り組む本共同研究にとっても重要な意味を持つ。

報告では、(1) 租税台帳の編纂経緯と構成・編纂論理、(2) 台帳が伝えるサフィー廟ワクフ物件の詳細、(3) 規模と地理的分布の特徴が論じられた。(1) オスマン朝のイラン北西部占領後、各地の総督の任命とともに占領地の課税のための検地が行われ、サフィー廟関連では、①主にサフィー廟ワクフ物件・財産に関わるワクフ台帳（TT867）と②アルダビール県租税台帳（TT902）が作成された。報告は①②の構成と編纂方法、そこに示されるオスマン

朝の租税体系を詳細に論じたが、①②の関係とオスマン朝支配下アルダビールにおけるサフィー廟ワクフの位置づけには不明な点が多いことも示された。続いて(2)①②の情報に基づきサフィー廟のアルダビール都市部・郡部における収入が再構成され、当時のサフィー廟の財政基盤について、現在アクセス可能なサファヴィー朝史料では確認できない詳細情報を当該台帳史料が含んでいることが示された。(3)さらに、台帳が示すワクフ物件の地理的分布について、本共同研究で作成中のデータも利用しつつ分析が行われたが、16世紀の不動産登記目録 *Şarīḥ al-Milk* の物件とは異同も多く、ワクフ物件が変化した可能性があること、台帳がサフィー廟のワクフ物件全てを網羅していない可能性も指摘された。

以上の報告に対し、オスマン帝国史研究者の齋藤久美子氏により、本報告が論じたアルダビール租税台帳・サフィー廟ワクフ台帳について、オスマン朝における検地・租税台帳 (*tahrir defteri*) 編纂制度とその歴史の変遷を踏まえたコメントが行われた。*tahrir defteri* (基本的に明細帳 *mufassal*・簡易帳 *ijmal* の2種からなる) は、オスマン帝国が拡大していった15-16世紀、ティマール制導入を目的に編纂された。この時、調査対象地におけるワクフの記録の残しかたには2通りあり、1つは明細帳の最後にワクフ情報が追加される形で、この形式の記録はすでに16世紀に確認できる。もう1つは独立のワクフ台帳が作成される形で、16世紀末にかけて多くなっている。ティマール制が衰退し検地も行われなくなった18世紀に作成されたアルダビールの租税台帳とサフィー廟ワクフ台帳は、編纂経緯や台帳の構成・相互関係などさまざまな点に独自の特徴が多く見られ、この特異性が当時のいかなる状況を反映しているのかを検討する必要性が指摘された。

続く総合討論では、報告で示されたオスマン語史料の再検討が行われ、オスマン帝国がアルダビールの占領統治・検地に際し、サフィー廟とそのワクフをどのように扱ったか、2台帳の成立に至る背景をより具体的に明らかにする可能性が示された。また、台帳が伝えるサフィー廟の収入の特徴、ワクフ地の分布に関する情報についてはさらに多岐にわたる質疑・討論が行われたが、台帳の情報を *Şarīḥ al-Milk* をはじめサファヴィー朝・同朝滅亡後のサフィー廟財産関連史料と照合しさらに同定・分析を進める可能性が残されていること、当該台帳が中世から近代に至る長期的なサフィー廟財産管理システムの再構成に極めて大きな役割を担うことが改めて確認された。(文責：渡部 良子)